

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。

今月分の請求書をご査収の程よろしくお願ひ申し上げます。

いつも大変お世話になりありがとうございます。

じわじわと蒸し暑くなってきて、夏の到来を実感しております。まだ明るい時間に帰宅できる今の季節は、なんだかウキウキします。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

花盛りの季節ですね。昨年5月に訪れた岡寺と一昨年6月に訪れた長谷寺と連携し「大和三大観音 あぢさゝり回廊」という催しをされている壺阪寺へ行って参りました。近鉄電車の壺阪山駅前からバスに乗って10分ほど、バスは住宅地から離れて山を登り、突き当たりが壺阪寺です。

紫陽花にはまだ少しタイミングが早いかもしれないな〜と心配したとおり、露地植えの紫陽花はまだ咲いていませんでしたが、色とりどりの鉢植えの紫陽花でお寺の中は華やかでした。

壺阪寺の見どころの一つが巨大石仏です。1964年よりインドで行われているハンセン病救済活動のご縁でインドからお礼として贈られたそうです。

まずは平成19年に開眼した大釈迦如来石像に出迎えられました。カラフルな紫陽花に彩られて、なんだか異国情緒を感じます。さらに進むと、昭和58年に開眼した全長20mの大観音石像と、平成11年に渡来した全長8mの大涅槃石像があります。大観音石造は66個のパーツに分けて運んだそうです。運ぶのも大変ですが、石が割れないように、ズレないようにクレーンでパーツを釣り上げて、バランスよく立たせる事も至難の業だなあと思ひながら眺めていました。このような巨大な物を支えもなく立たせるために、土台を基礎岩盤まで深く掘り下げているそうです。

これらの石像は現代の物ですが、お寺の創建は703年といわれております。御本尊・十一面千手観音菩薩座像は「眼の仏様」として古くから信仰され、平安貴族も盛んに詣でていたそうです。

丁度、春の特別拝観を開催中でしたので、御本尊のお身拭い参拝もさせていただきました。現存する仏像は、彩色が残っていて華やかな印象だったので、石造のように新しい時代のものかと思ったのですが、室町時代に造られたものだそうです。

白目の彩色もしっかり残っているせいなのか、ギョロリと強い目力が印象的な仏様です。職員の方から頂いた手拭いでお膝と脛をしっかりと拭わさせていただきました。

清少納言は「枕草子」の「物尽くし」とよばれる「すさまじきもの」や「うつくしきもの」、「山は」、「川は」といったテーマに沿って書いている中で、「寺は壺阪 笠置 法輪 霊山は、釈迦仏の御すみかなるが、あはれなるなり。石山、粉河、志賀。」と、壺阪寺を筆頭に挙げています。今風にいえば「私のイチオシは壺阪寺」という感じなのではないでしょうか。京の都から壺阪寺まで直線距離でも約80km。昔は危険な山越えもあったことでしょう。清少納言は行ったことあるのかなあ。いつか行きたいお寺のひとつだったのかなあ。今更ですが、枕草子を読んでみたくなりました！

今年もあつという間に折り返しです。皆さまも、季節の変わり目のお疲れがでませんように。お身体をお大事に健やかに過ごしてくださいませ。



本日は晴天なり！



大釈迦如来石造



大観音石造



大涅槃石造



御本尊

今月も最後まで読んで頂きまして、
ありがとうございました。
来月もよろしくお願ひいたします。